

(案)

令和3年度

嘉麻市足白地域将来計画



令和4年〇月策定

足白地域小さな拠点づくり形成委員会

目 次

はじめに

1. 地域の現状	1
2. 地域の課題	5
3. 地域の強み	5
4. 地域の課題整理	6
5. 具体的な取組内容の検討	6
6. 地域づくりの方向性	7
7. 将来像の実現に向けてのフロー	8
8. まちづくりのキャッチフレーズ	9
9. まちづくりの基本理念とめざすべき将来像	10
10. 活動拠点と施策	11
11. 地域の活動スケジュール	12

資料

P13～P29

- ① 足白地域小さな拠点づくり形成委員会 委員名簿
- ② 活動内容
- ③ アンケート内容
- ④ アンケート結果
- ⑤ ワークショップ資料
- ⑥ ワークショップ参加者

は じ め に

計画策定の趣旨

私たちの暮らす足白地域は、馬見山・屏山から見下ろす裾野の間に集落が点在する農村地域です。近年、少子高齢化や人口減少が急速に進行しており、数十年前まであった農協もなくなり、食料品や日用品などの生活必需品を提供する施設は一つもありません。平成 26 年 3 月、地域の教育文化の拠点であった足白小学校が閉校し、現在、中心となりうる施設としては、旧足白小学校校舎が新たに生まれ変わった農泊施設「カホアルペ」(R2 開設)、体育館がボルダリング施設「k-WALL」(H30 開設)として開設され、市内外からの来訪者を受け入れる施設として活用されています。しかしながら、地域住民の拠点施設としての機能は果たしていません。

また、現在ある嘉穂地区公民館足白分館は、緊急時の避難所、選挙の投票所、敬老会等の地域行事に利用してきていますが、施設の老朽化は著しく地域コミュニティの拠点の場としては言うまでもなく、耐震補強もされていないため避難所としての機能も果たせていない状況です。

このような情勢の中、「嘉麻市小さな拠点形成促進事業」の公募があり、足白地区区長会で協議の結果、満場一致で足白地域合同で、今回の取り組みを行うことに決定しました。

地域の皆さまには、本計画の目的や事業内容をご理解いただき、これからの足白地域の将来のため、本事業へのご賛同を賜りますとともに、ご支援とご協力並びに積極的なご参加をお願い申し上げます。

令和 4 年 2 月

足白地域小さな拠点づくり形成委員会

委員長 縄 田 和 之

1. 地域の現状

足白地域は馬見山・屏山のふもとに位置し、稲作をはじめ、果樹栽培も行われている農業が盛んな地域である。人口は700人弱で高齢化率は45%以上と高く、少子高齢化の余波により年々人口は減少している。

この地域は古くから歴史があり、弥生時代中期の墳丘墓である鎌田原遺跡は県指定史跡となっている。平安時代に建立された馬見神社は、戦国武将の秋月種実や秋月藩・黒田氏の崇敬も深く、嘉麻郡の総社として五穀豊穰の祈願・祭礼が行われた。また、江戸時代初期の剣豪、佐々木小次郎が修行の場として訪れた際に、自ら植えたとされる「小次郎柿」なども伝承されている。

足白で最も誇れるシンボルは、地区の南東に位置する標高978mの「馬見山」である。馬見山は嘉麻市と朝倉市の境界に位置し、県内山岳標高ランキングでは第7位の高さ。その西側には、屏山(927m)や、古処山(859.4m)が連なり、これらの三山からなる山々、通称



足白地区のシンボル

「嘉穂アルプス」は、平成28年に九州では2例目となる日本山岳遺産の認定を受けており、豊かな自然の恵みを育むと共に登山やトレッキングなど森林がもたらす癒しの空間として、地域の生活や都市との交流などに多大な影響を及ぼしている。

文献によると、足白という珍しい地名は、天照大神（あまてらすおおみかみ）の孫にあたる、天津彦火瓊瓊杵尊（あまつひこほのくにぎのみこと）が、日向の国の高千穂の峰より、足の白い馬に乗って馬見山に天降られたことに由来する。この伝説をまちづくりに活かすため、“足白”をまちづくりの基本理念を考えるキーワードとする。



近年では、平成26年3月、地域の教育文化の拠点であった足白小学校が閉校し、新たに宿泊施設「カホアルペ」、ボルダリング施設「K-WALL」として生まれ変わり、市内外からの来訪を受け入れる施設として開設されている。

足白地域



カホアルペ・K-WALL

平成 26 年 3 月に閉校した足白小学校校舎を農泊施設「カホアルペ」(R2 開設)、体育館をボルダリング施設「K-WALL」(H30 開設)として活用している。



馬見神社

源為朝が再建した嘉麻郡の総社
五穀豊穰を祈念する（出典 嘉穂町誌記載）



嘉穂アルプス

平成 28 年に日本山岳遺産認定
978mの馬見山は、県境ではない福岡県
のみの山として最大の高さを誇る



御神所岩

馬見山の頂上付近にあって、高さ約24m
横幅約18m、その下方に小祠がある。
馬見神社の旧社の地。



九州りんご村

馬見山中腹の斜面約10畝を利用し、地
元の農家が梨、りんごを栽培している
筑豊自慢の観光農園



屏川の清流

一級河川遠賀川へ注ぐ河川の一つ
夏にはシャワークライミングが体験できる



鬼火焚き

毎年1月初旬に行われる地域の伝統行事。
無病息災を祈願して行われている。



行政区別人口

(合併により平成17年度以前の行政区別人口データは無し)

(平成18年度)

集計区分	馬見(割合)	屏(割合)	椎木(割合)	足白	割合
年少(0～14歳)	72(10.7%)	18(10.9%)	31(13.8%)	121	11.4%
生産年齢(15～64歳)	345(51.1%)	94(57.0%)	131(58.5%)	570	53.6%
老年(65歳以上)	258(38.2%)	53(32.1%)	62(27.7%)	373	35.0%
合計	675	165	224	1,064	—
世帯数	270	51	69	390	—

(平成25年度)

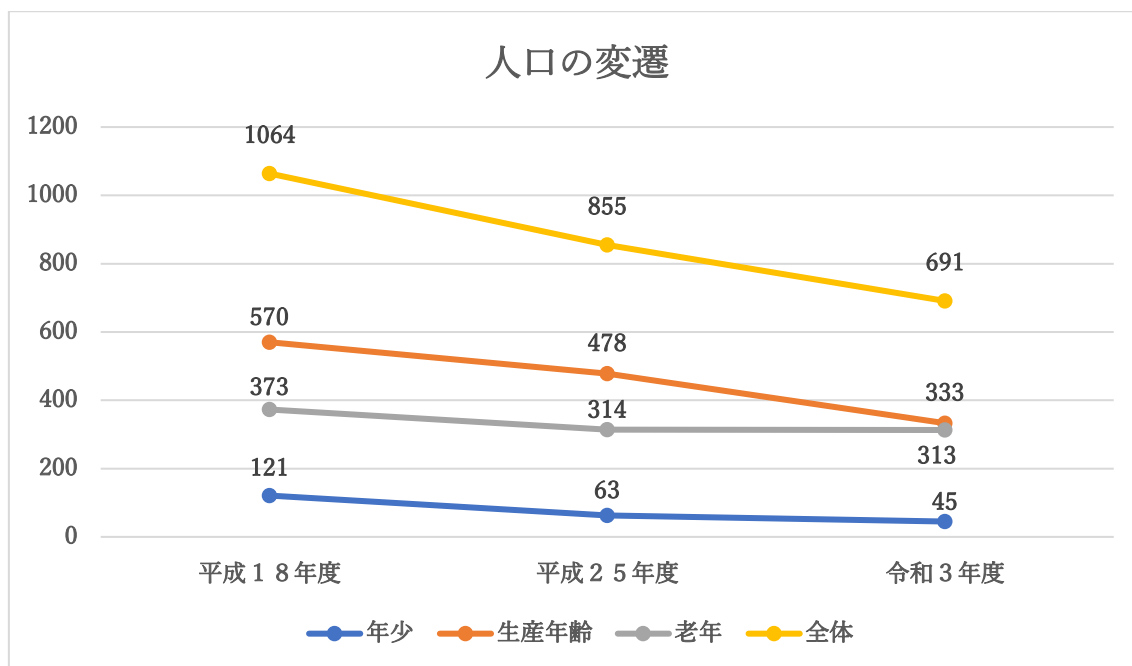
集計区分	馬見(割合)	屏(割合)	椎木(割合)	足白	割合
年少(0～14歳)	29(5.3%)	10(7.8%)	24(13.0%)	63	7.4%
生産年齢(15～64歳)	303(55.8%)	74(57.8%)	101(54.9%)	478	55.9%
老年(65歳以上)	211(38.9%)	44(34.4%)	59(32.1%)	314	36.7%
合計	543	128	184	855	—
世帯数	230	51	67	348	—

(令和3年度)

集計区分	馬見(割合)	屏(割合)	椎木(割合)	足白	割合
年少(0～14歳)	23(5.6%)	10(8.4%)	12(7.4%)	45	6.5%
生産年齢(15～64歳)	190(46.3%)	57(47.9%)	86(53.1%)	333	48.2%
老年(65歳以上)	197(48.1%)	52(43.7%)	64(39.5%)	313	45.3%
合計	410	119	162	691	—
世帯数	185	56	71	312	—

※住民基本台帳による調査

年齢区分別グラフ



第1回ワークショップにおいて出された意見と、地域アンケートを基に抽出した地域の課題及び地域の強みについては以下のとおりとなった。

2. 地域の課題

(1) 若年層を中心とした人口減少

- ①地域の後継者不足
- ②働く場所がない
- ③人口減少に伴う空家の増加
- ④若者流出に伴う高齢化率の急増
- ⑤過疎の加速化

(2) 交通手段の不足

- ①高齢者の移動手段の検討が必要
- ②買い物難民の増加
- ③通院手段の確保

(3) 地域コミュニティの衰退

- ①嘉麻市嘉穂地区公民館足白分館の老朽化に伴う機能低下
- ②小学校の閉校による地域交流の場の喪失
- ③少子高齢化による地域行事、イベント等の縮小化

3. 地域の強み

(1) 人情味あふれる足白

- ①愛着があり、住み続けたいと思う地域
- ②ご近所同士のつながりが強い
- ③地域の祭りや伝統文化に対する関わり
- ④来訪者へのおもてなしの心



(2) 豊かな自然の恵みと田園風景

- ①米、野菜、果物等の農産物（観光農園の醸成）
- ②嘉穂アルプス、癒しの森、豊かな清流
- ③おいしい空気、美しい星空

馬見山を代表とする嘉穂アルプスの豊かな自然が、山腹に位置する足白の地域住民の暮らしを支えていると言っても過言ではない。来訪者との会話の中では「空気がおいしい」「お米や果物がうまい」「星空が美しい」「四季折々の景観が素晴らしい」など、都会では味わえない感動と喜びの声をよく耳にする。人は永年ある場所に住み続けると、地域の宝や魅力よりも、地域に無いモノに目が向き、それを行政に求める傾向にある。足白地域では、アンケート調査やまちづくりのワークショップ等を通じて、『豊かな自然が何よりも大切な宝』であることを住民は再認識した。また、地域のシンボルで、宝でもある馬見山の“うまみ”をまちづくりの基本理念を考える上でのキーワードの一つに位置づける。

4. 地域の課題整理

(1) 地域課題への対策（課題解決のための必要事項）

- ①地域の後継者育成 ②コミュニケーションの場の充実
- ③地域資源の保全、活用 ④賑わいの創出（行事、イベント等）
- ⑤雇用の創出 ⑥災害等による地域住民の安全・安心の確保

(2) 地域の取組の優先順位（地域づくりの目標設定）

- ①地域活性化実施計画（仮称）の策定
- ②地域運営組織の形成
- ③地域活動拠点の設置



5. 具体的な取組内容の検討

(1) 地域の活動内容

- ①農業の後継者育成、発掘（安定した収入を得る仕組みづくり）
- ②公民館活動と地域コミュニティの充実
- ③共助による防災意識の向上、避難所の確保
- ④観光農園の再建、農産物の集約・販売の拠点づくり
- ⑤地域が一体となった行事への参画
- ⑥地域住民が健幸^{（注1）}に過ごせる田園都市の形成

（注1）健幸…体の健康だけでなく、人々が生きがいを感じ、安全・安心で幸福な生活を送れること。



(2) 組織における役割の検討

- ①地域運営組織の役割
- ②活動内容の検討

(3) 行政の支援内容（補助金等の財源検討）

- ①次年度以降の取組を行政として継続支援する
- ②地域の目指す方向性に応じた補助金等の財源の検討を行う

(4) 他の地域との連携（交流人口増加、定住人口増加）

- ①市内観光施設との有機的な連携
- ②地域体験（農業体験、自然体験など）

6. 地域づくりの方向性

- (1) 地域住民が集う足白地区公民館をコミュニティセンターとして活用し、だれが訪れても居心地のいい空間をつくり、呼ぶ人も来る人も“うまみ”がある足白全域の交流を目指す。

地域内でも地域外でも、訪れた人みんなが健幸になれる拠点づくりを軸に、人と物が循環する仕組みづくりを考える。

- (2) 農業体験、料理教室などから農業ボランティアや農業者を育成し、定住・関係人口^(注2)を増やす。(果樹園作業やこんにゃくづくり等)



- (3) 地域での相談事とそれを解決できる人をマッチングし、相互に地域内で補える体制づくりを目指す。(交通課題、空家の解消、廃野菜の地域内リサイクルなど)

- (4) 居心地のいい空間と食の提供、体験することで「気づいたら健幸になる」コンテンツを掘り起こし、心を豊かにする“足白足るを知る”を実践する。

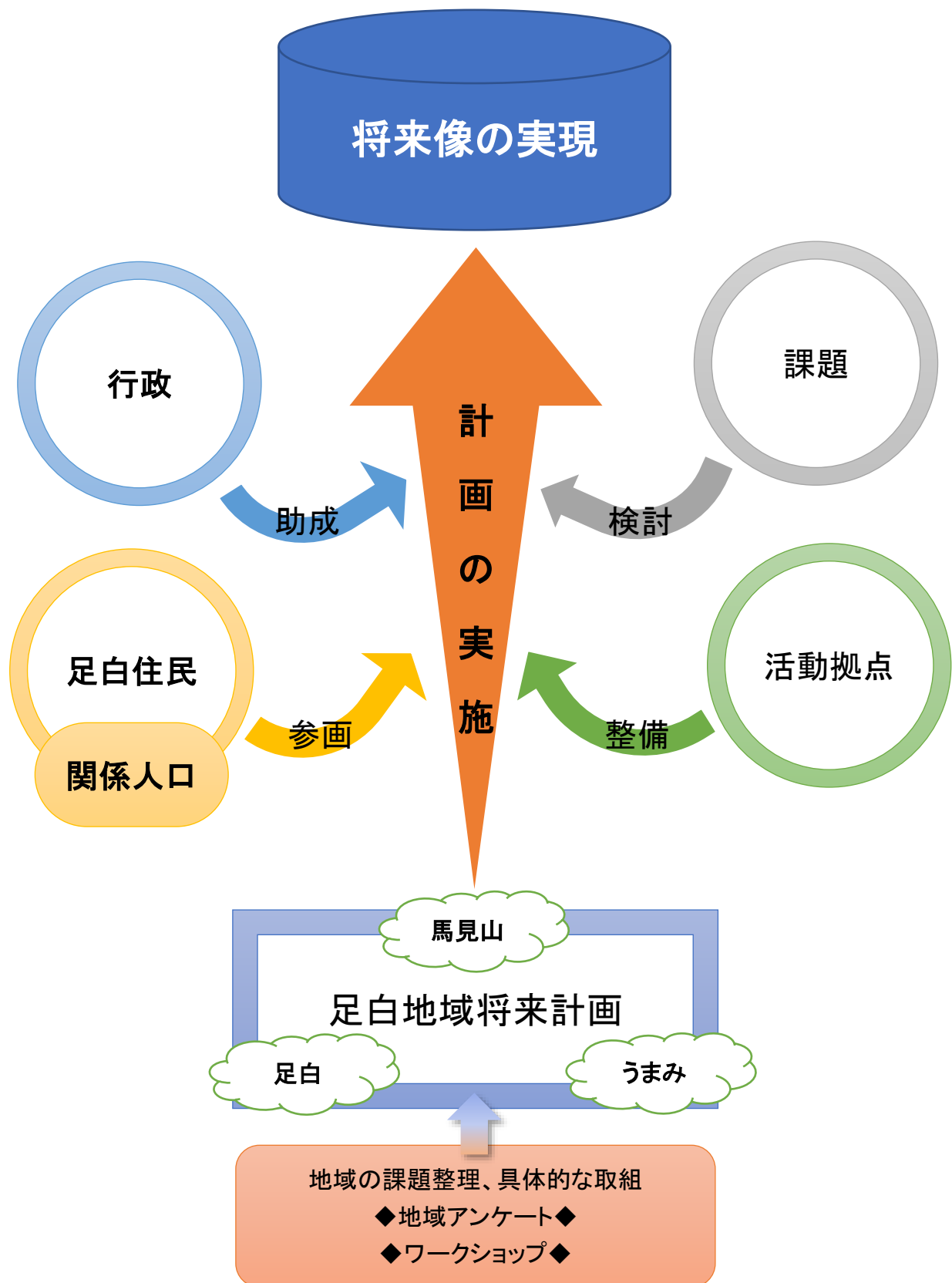
- (5) 足白地域の四季折々の季節を様々な企画で体験する。交流会を年4回行い、企画の立案、実施した企画の反省、地域外へアピールするための SNS 配信を行う。



- (6) 足白の“うまみ”資源を発掘し、インターネットなどのデジタルによるアピールを行うとともに、足白地域へも実際に足を運んでもらう。

(注2) 定住人口…地域に居住、移住する人口。関係人口
関係人口…地域にルーツや愛着がある人、地域と多様に関わる人々

7. 将来像の実現に向けてのフロー



8. まちづくりのキャッチフレーズ

老子が記した「道德教」の一節に「足るを知る者は富む（知足者富）」という有名なことわざがあります。これはたとえ貧しくても、心が豊かであることを意味します。足白は視点を変えれば「あししろ」^{あししろ}とも読むことができ、漢字を「足知ろう」と置き換えると、まさに「足るを知る者は富む」となります。これを足白における将来像実現に向けての、まちづくりのキャッチフレーズとします。この熟語は、足白において、例え大金持ちになれなくても、また都会のように便利な生活ができなくても、豊かな自然に囲まれ、人間味あふれる人々が互いに支えあいながら、心身ともに健康で、心豊かに暮らし続けることを意味します。また「足知ろう」という言葉には、私たちが暮らし続ける“足白をもっと知ろう”^{あししろ}という意味が含まれ、今一度地域資源を掘り起こし、これを地域活性化に役立てようとするものです。

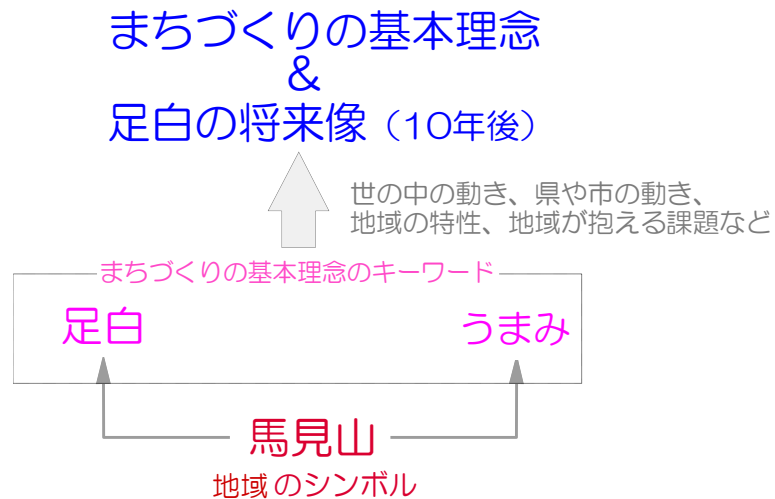
《将来像実現に向けてのまちづくりのキャッチフレーズ》

～^た足る^しを知る^{もの}者は^と富む^{あししろ}“足白”～



9. まちづくりの基本理念とめざすべき将来像

“うまみ”と“足白”の二つのキーワードを基本に、世の中の動向や県・市の動き、さらには地域の特性や課題への対応を踏まえた上で、足白のまちづくりの基本理念と、10年後のめざすべき将来像を設定する。



《まちづくりの基本理念》

住んでよし 訪れてよし
うまみ感あふれる 心あったか
デジタル健幸田園の里
嘉穂アルプス “^{あししろ}足白”

《10年後の足白の将来像》

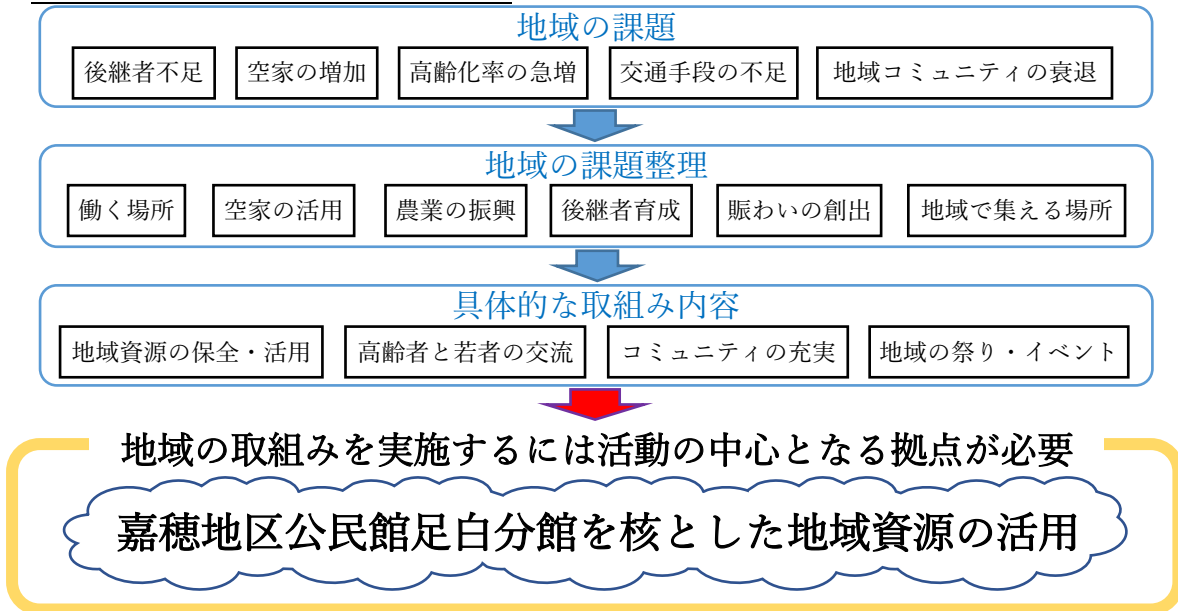
『心あったかデジタル健幸田園の里 “^{あししろ}足白”』



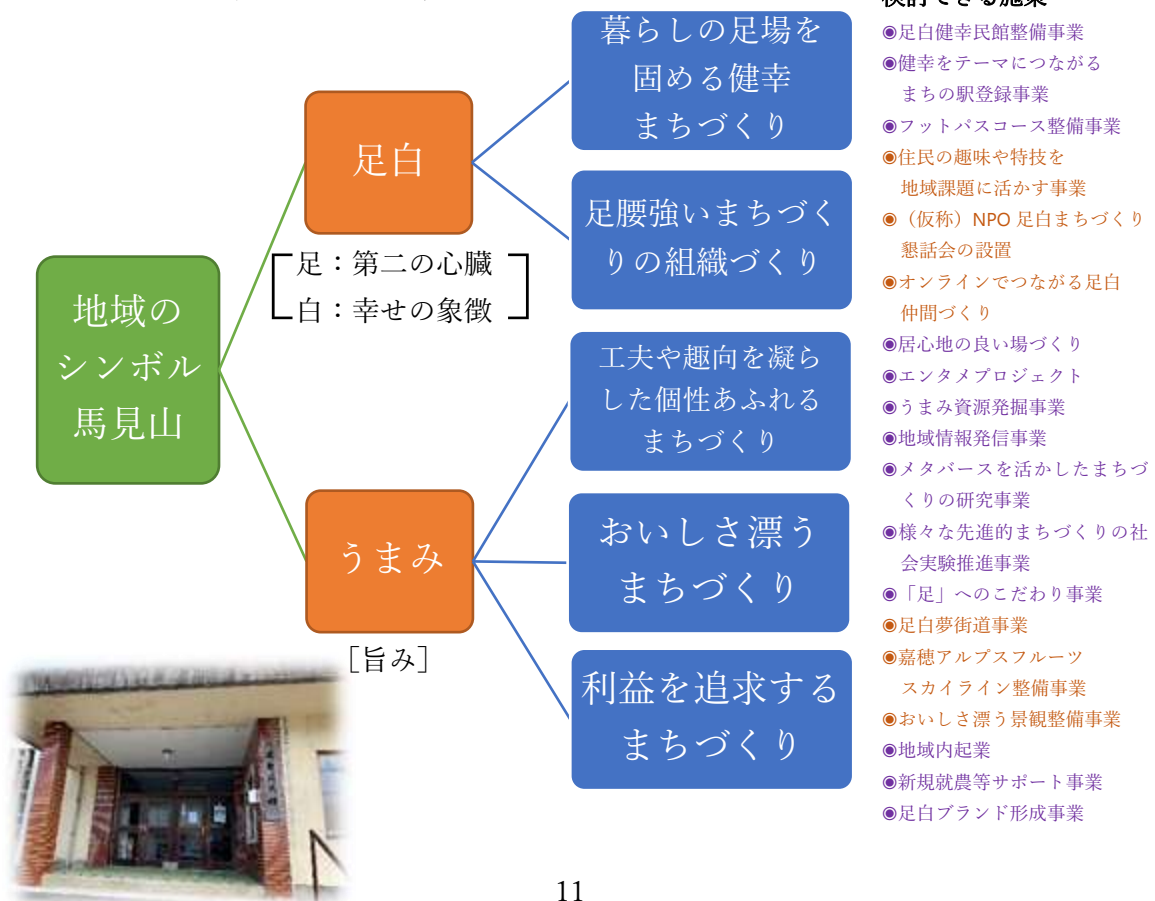
10. 活動拠点と施策

上記の検討に基づく取組を行うにあたり、嘉穂地区公民館足白分館を中心とした周辺資源の利活用を行うことが足白地域の活性化につながる。

地域課題解決に向けての取り組み



まちづくりの基本テーマと施策



1 1. 地域の活動スケジュール（短期・中期・長期）

- ・ 短期……地域将来計画策定、活動拠点の選定
- ・ 中期……地域運営組織の確立、各種サービス機能の集約
- ・ 長期……地域特産品・加工品の開発、大学・企業等の協力、仕事・収入の確保

		R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
短期	地域将来計画策定	→								
	活動拠点の選定	→								
中期	地域運営組織の確立									
	各種サービス等の機能集約									
長期	大学・企業等の協力									
	地域特産品・加工品の開発									
	仕事・収入の確保									



資 料

①足白地域小さな拠点づくり形成委員会 委員名簿

②活動内容

③アンケート内容

④アンケート結果

⑤ワークショップ資料

⑥ワークショップ参加者

①足白地域小さな拠点づくり形成委員会 委員名簿

名 前	選 任 区 分	役 職
縄 田 和 之	公民館長	委員長
石 本 則 之	東馬見区長	副委員長
赤 地 淳 一	西馬見区長	委員
靱 井 常 喜	屏区長	〃
福 田 長	椎木区長	〃
縄 田 美 智 代	東馬見	〃
伊 藤 敬 子	西馬見	〃
縄 田 久 美	屏	〃
畠 中 佳 代	椎木	〃
中 原 重 治	財産管理委員会	〃
山 口 俊 徳	長寿会	〃
大 場 妙 子	長寿会	〃
大 塚 裕 子	地域女性の会	〃
縄 田 好 子	地域女性の会	〃
森 徹 夫	果樹組合	〃
鎌 田 隆 宏	消防団	〃
諫 山 航 太	消防団	〃
内 田 博 茂	消防団	〃
児 玉 孝 幸	子ども会代表	〃
森 裕 治	公民館	〃
秋 山 英 美	公民館	〃
渡 邊 敬 子	椎木（移住）	〃
畠 愛 音	屏（移住）	〃
縄 田 和 生	地域づくり	〃
福 田 正 幸	公民館	事務局
畠 中 博 文	市議会議員	オブザーバー

②活動内容（形成委員会 開催日）

日時	活動名	内容
令和3年10月12日(火) 19:00～	小さな拠点に関する 事業内容説明会	小さな拠点形成促進事業の説明 今後のタイムスケジュール
令和3年10月26日(火) 19:00～	形成委員会発足につ いての協議	小さな拠点形成促進事業の概要及び申 請について スケジュール及びアンケート調査につ いて
令和3年10月中	地区アンケート	足白地域小さな拠点づくりアンケート の実施
令和3年11月25日(木) 19:00～	第1回形成委員会	事業の流れ、足白地区の現状について説 明 アンケート調査の結果報告とまちづく りの話題提供 意見交流会（ワークショップ）の開催 地域の魅力と地域の課題について
令和3年12月2日(木) 19:00～	第2回形成委員会	意見交流会（ワークショップ）の開催 足白地域の将来像について
令和4年1月16日(日) 10:00～	第3回形成委員会	意見交流会（ワークショップ）の開催 将来像実現のためのプロジェクト提案

③アンケート内容

令和3年10月26日

足白地域の皆様へ

足白地域小さな拠点づくり形成委員会
委員長 縄田 和之

足白地域小さな拠点づくりアンケート実施について

秋冷の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、現在、足白公民館の老朽化に伴って施設の一部に床落ち箇所や雨漏り箇所など地域コミュニティの拠点としてその機能が著しく低下している現状です。また、近年、足白地域を取り巻く環境も急速な少子高齢化や過疎化により、足白小学校の統廃合、農協支所の廃止など中核的な施設もこの地域から姿を消し衰退の一途を辿っています。

このことから、今般、地域課題の解決を図るため市及び県の補助金を活用し、小さな拠点形成促進事業に取り組む「足白地域小さな拠点づくり形成委員会」を組織致しました。「小さな拠点づくり」とは、皆さんの暮らしに直結した様々な課題や問題点を洗い出し、その課題解決に向けて国や県、又は市に依頼すること、地域や自分たち自身で取り組むことなどを協議し、足白地域の将来計画を策定するものです。つきましては、計画の策定に先立ち皆様から幅広いご意見をいただき計画の礎にしたいと考えていますので、アンケートにご理解とご協力をお願い致します。

(お問合せ先) 事務局：縄田和之 TEL：090-1194-7330
福田正幸 TEL：090-4488-4325

足白地域アンケート調査

※1世帯1枚のアンケートなのでご家族
で話しあってご記入願います。

※該当する箇所に☑を入れてください。

記入が必要な個所は 内にご記入ください。

①あなたのことを教えてください

●お住まいの行政区は 行政区

●あなたの性別を教えてください。 ☐男性 ☐女性

●あなたの年代を教えてください。

☐10代 ☐20代 ☐30代 ☐40代 ☐50代 ☐60代 ☐70代 ☐80代以上

●あなたと同居しているご家族の方を教えてください。（複数回答可）

☐配偶者 ☐子ども ☐孫 ☐自身の親・配偶者の親 ☐その他 ☐同居していない

●あなたの主な交通手段は何ですか。（複数回答可）

☐自動車 ☐バイク（原付を含む） ☐バス ☐タクシー ☐自転車 ☐徒歩

☐その他

②お住いの地域について

●あなたは、今後もこの地域・集落到住を続けたいと思いますか。

☐思う ☐思わない ☐わからない（あわせて選んだ理由もご記入願います。）

理由：

●あなたは、この地域・集落到住に愛着がありますか。

☐ある ☐ない ☐わからない（あわせて選んだ理由もご記入願います。）

理由：

●あなたは、自分の子どもにもこの地域・集落到住に住んで欲しいと思いますか。

（子どもがいない方も、「もし子どもがいたら」と考えてお答えください）

☐思う ☐思わない ☐わからない（あわせて選んだ理由もご記入願います。）

理由：

●地域の課題はなんだと思いますか？（複数回答可）

☐高齢化による人口減少 ☐交通手段がない ☐雇用の場がない ☐買い物が不便

☐空家が多い ☐農業の後継者不足 ☐拠点施設（公民館等）がない

☐その他

裏面につづく

●地域の強みは何だと思いますか？（複数回答可）

☐地域のつながり ☐米など地域特産品 ☐歴史的資源 ☐自然環境（馬見山・屏川）

☐なし・リンゴなどの果樹 ☐農泊施設（嘉穂アルペ・ポルダリング）

☐その他

●地域にあったらいいと思うものは何ですか？（複数回答可）

☐スーパー（直売所） ☐移動販売車 ☐食堂 ☐配食サービス ☐修理補修の代行

☐地域の集いの場（コミュニティセンター） ☐周回バス（買い物・病院）

☐その他

●地域に住み続けるために何が必要であると思いますか？（複数回答可）

☐住みやすい環境 ☐交通の利便性 ☐医療・福祉施設 ☐金融機関 ☐公園

☐文化・スポーツ施設 ☐集いの場 ☐買い物できる場所 ☐飲食店

☐その他

●地域の人口減少対策として何が必要だと思いますか？（複数回答可）

☐働く場所（企業誘致） ☐農業の振興（後継者対策） ☐買い物対策 ☐子育て支援

☐通勤・通学対策 ☐医療・福祉の充実 ☐空家の利活用（移住者の増加）

☐その他

●地域住民が主体となって取り組むべきことは何だと思いますか？（複数回答可）

☐コミュニティの充実 ☐地域の祭り・イベント（賑わいの創出）

☐高齢者と若者の交流 ☐地域資源の保全・活用 ☐伝統文化の保全・活用

☐郷土への誇り・愛着の醸成 ☐青少年の育成 ☐起業など雇用の創出

☐その他

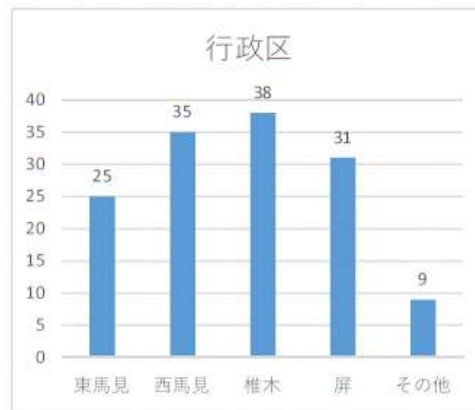
地域づくりに関するご意見をお願いします。（自由記載）

※アンケート調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

④アンケート結果

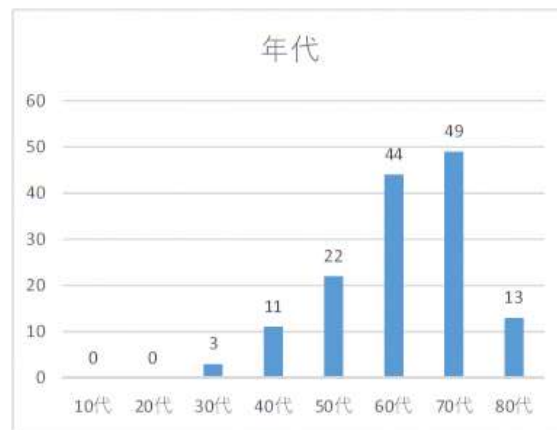
●行政区

東馬見	25
西馬見	35
椎木	38
屏	31
その他	9
計	138



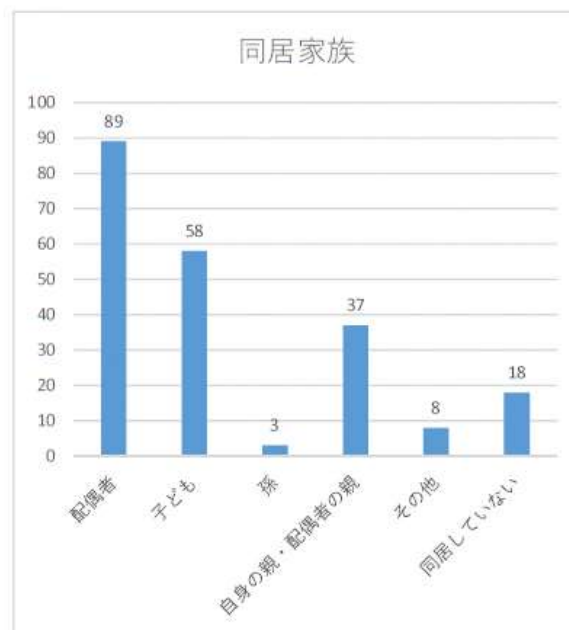
●年代

10代	0
20代	0
30代	3
40代	11
50代	22
60代	44
70代	49
80代	13
計	142



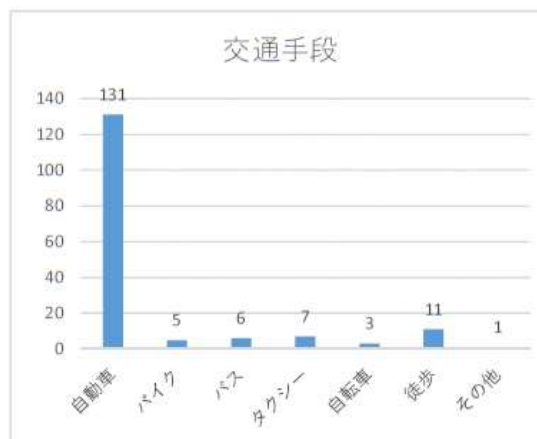
●同居家族

配偶者	89
子ども	58
孫	3
自身の親・配偶者の親	37
その他	8
同居していない	18
計	213



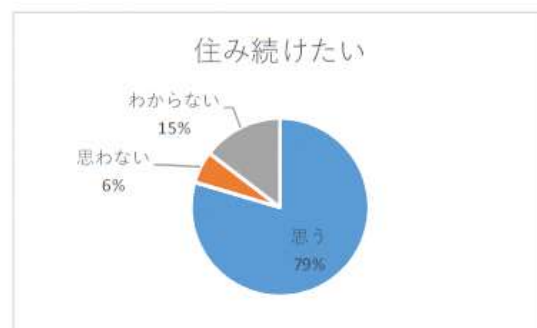
●交通手段

自動車	131
バイク	5
バス	6
タクシー	7
自転車	3
徒歩	11
その他	1



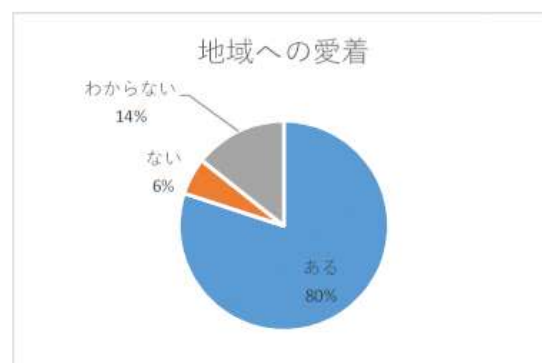
●この地域に住み続けたい

思う	109
思わない	8
わからない	20



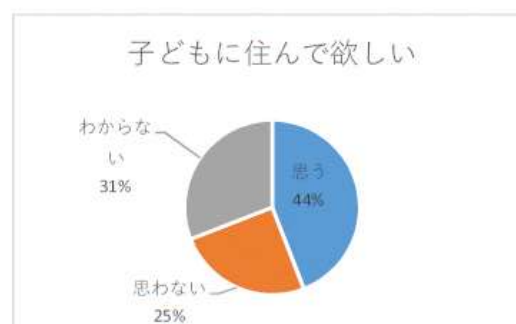
●地域への愛着

ある	112
ない	8
わからない	20



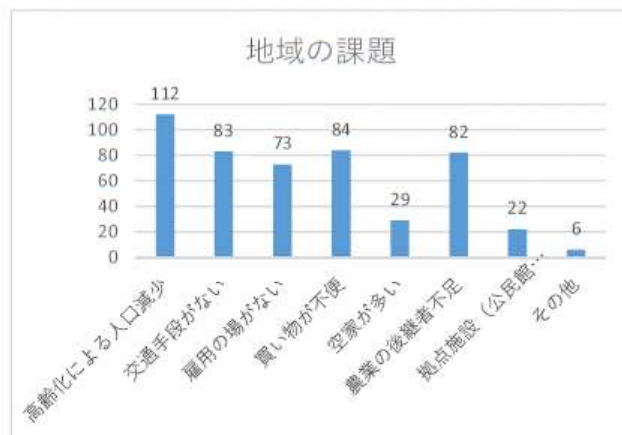
●子どもに住んで欲しい

思う	60
思わない	34
わからない	42



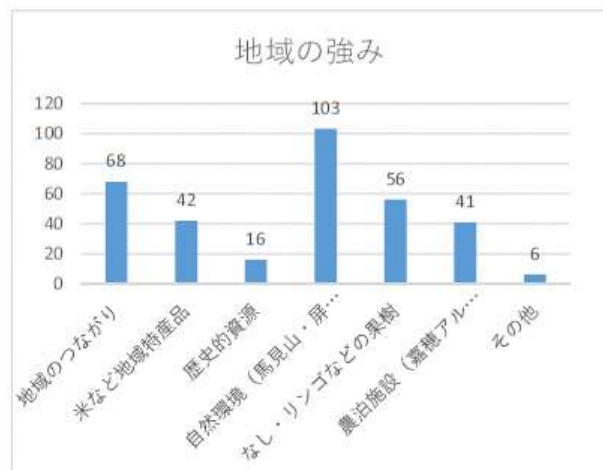
●地域の課題

高齢化による人口減少	112
交通手段がない	83
雇用がない	73
買い物が不便	84
空家が多い	29
農業の後継者不足	82
拠点施設（公民館等）がない	22
その他	6



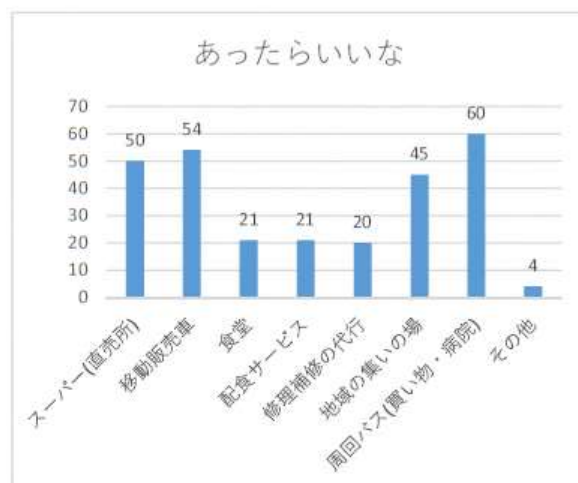
●地域の強み

地域のつながり	68
米など地域特産品	42
歴史的資源	16
自然環境（馬見山・屏川）	103
なし・リンゴなどの果樹	56
農泊施設（嘉穂アルペ・ホルタリング）	41
その他	6



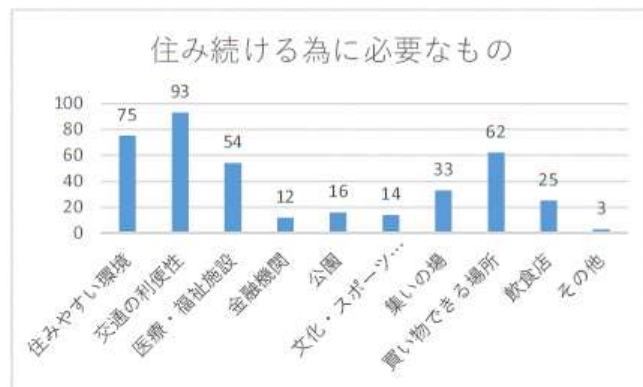
●あったらいいな

スーパー(直売所)	50
移動販売車	54
食堂	21
配食サービス	21
修理補修の代行	20
地域の集いの場	45
周回バス(買い物・病院)	60
その他	4



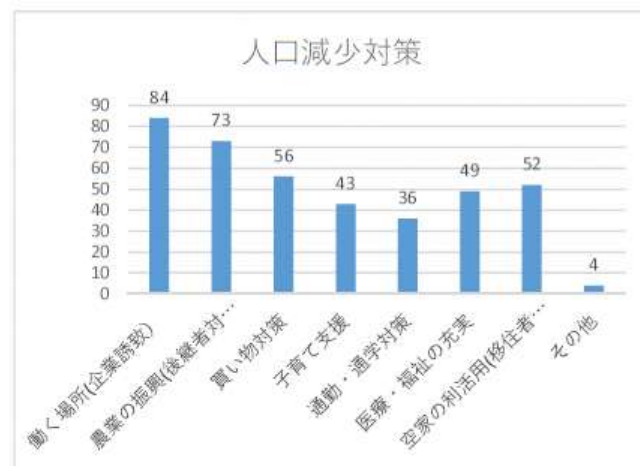
● 住み続ける為に必要なもの

住みやすい環境	75
交通の利便性	93
医療・福祉施設	54
金融機関	12
公園	16
文化・スポーツ施設	14
集いの場	33
買い物できる場所	62
飲食店	25
その他	3



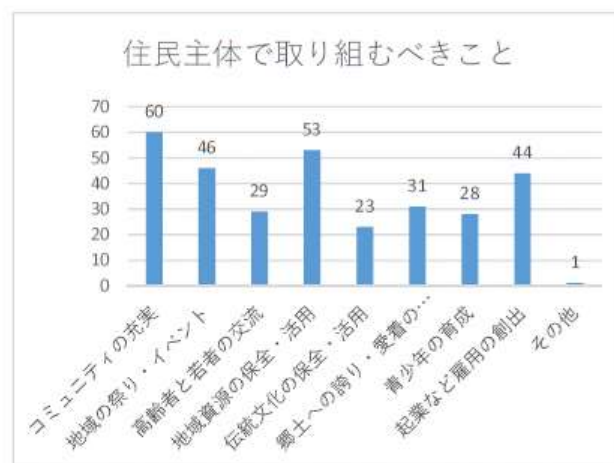
● 人口減少対策

働く場所(企業誘致)	84
農業の振興(後継者対策)	73
買い物対策	56
子育て支援	43
通勤・通学対策	36
医療・福祉の充実	49
空家の利活用(移住者の増加)	52
その他	4



● 住民主体で取り組むべきこと

コミュニティの充実	60
地域の祭り・イベント	46
高齢者と若者の交流	29
地域資源の保全・活用	53
伝統文化の保全・活用	23
郷土への誇り・愛着の醸成	31
青少年の育成	28
起業など雇用の創出	44
その他	1



アンケート結果：自由記述意見

※記述回答につきましては、可能な限り原文記載としております。なお、個人に関する情報、誹謗中傷、不適当なものにつきましては削除させていただきました。

●あなたは、今後もこの地域・集落に住み続けたいと思いますか。

【思う】

- ・家がある ・仕事がある ・生まれ育った故郷だから ・自然が豊か ・他に行く所がない
- ・自然が豊か ・静かでのんびりしている ・水害が無い ・跡継ぎの為 ・空気が良い
- ・好きだから ・先祖が残した土地がある ・人の温かみがある ・住み慣れている
- ・高齢で「今更他の地域に行っても…」の思いがある ・住みやすい ・家の維持
- ・環境が良く好き ・将来的に環境を維持していきたい

【思わない】

- ・裏山危険 ・交通不便 ・店が遠い ・他に行く所がない
- ・人口減のため限界集落や地域の共同社会が消滅しつつある

●あなたは、この地域・集落に愛着がありますか。

【ある】

- ・慣れ親しんで来た ・生まれ育った所 ・ここ以外に住んだことがない ・子供の頃の自然 ・静か
- ・地域のつながり ・自然環境がいい ・災害無い ・人情味溢れている ・生活している ・好き
- ・人柄がいい ・先祖が残した場所 ・温かく居心地のよさを感じる ・子ども達も地域で育ててもらった
- ・人と自然の温かさ美味しい農作物の恩恵 ・長く住んでいる ・田畑がある ・仕方なく

【ない】

- ・不便 ・出身地でない

【わからない】 ・農業には適しているのに後継者がいない、生活ができない

●あなたは、自分の子どもにもこの地域・集落に住んで欲しいと思いますか。

【思う】

- ・自然環境がいい ・跡を継いで欲しい ・家がある ・人柄がいい ・交通量少なく安全
- ・故郷を守りたい ・土地を守る ・理想 ・生まれ育ったところを誇りに思う
- ・若い人が移住される様に公園とか環境を良くしてほしい ・近くに住んで欲しい
- ・避難所に行くまでの手段など、山に近い場所なので

【思わない】

- ・歳を取ると住み辛い ・仕事がない、遠い ・過疎化 ・教育環境が悪い ・子どもが少ない
- ・他市に家を建てた ・行事等で出勤が多い ・同世代が居なく活気がない ・交通不便

【わからない】 ・子どもの自由

●地域の課題はなんだと思いますか？

- ・地域の活性化作り　・若者が地区に住みつ、Uターン　・小売店　・少子化　・ネット環境
- ・農業の会社化　・工場土地誘致　・雇用の場　・地域ならではの里山の素晴らしさを発信
- ・農業の後継者　・過疎化　・公民館の老朽化　・団地がない　・空き地が少ない
- ・高齢化により行事の減少などで交流が減少　・来訪者への目的が果たせる環境(通信網少ない)
- ・交通網の発達

●地域にあったらいいと思うものは何ですか？

- ・農産物の加工施設　・嘉穂アルベに公民館機能の併設と地域利用も兼ねたレストラン
- ・学びの場　・雇用の場　・共同で自由に加工販売できる場所　・入浴施設、休憩所
- ・避難所

●地域に住み続けるために何が必要であると思いますか？

- ・雇用の場　・防犯対策として派出所　・足白に問題はないと思います、嘉麻市そのものの環境が大きく変わる必要があると思う　・老人施設で誰でも簡単に入れる所　・イベント

●地域の人口減少対策として何が必要だと思いますか？

- ・雇用　・若者、移住者への空き家アピール　・若い子育て世代の居住者の増加
- ・後継者　・都市圏への販売ルート確保(住民は出品料など無料で利用できるシステム)
- ・高速インターネット導入(ノマドワーカーの流入増大)

●地域住民が主体となって取り組むべきことは何だと思いますか？

- ・若者の減少が何もできない　・4Hクラブ・青年団の育成　・今迄通りの事を今迄通り行う事
- ・行政の整理等及び簡素化、組や行政区　・水、米がとても美味しい

地域づくりに関するご意見をお願いします。

- ◆安心して住み続けることができるには、人と人とのつながりが大事だと思います、そのために、誰でもいつでも利用できるコミュニティセンターが、あれば良いと思います
- ◆若者と老人達が話し合いの場をもうけ老人達は若者の声を聞き、雑談会などを開き老人達は若者の考えを聞き取り、若者と話しをして、学びたいことは学んでもらいたい。スマホの使いかたとか？老人達の脳の活性化に少しでも繋げたらいいと思う
- ◆コミュニティの拠点が必要。防災時の避難所の確保(公民館が古く地震時はどこへ避難するのか？)

- ◆道の駅的な敷居の低い集える場があり、そこに地元の人が作ったものを出品したり、教えてもらえるようなものがあればいいなと思ったりします。子供たちにも得意なのを教えてくれる場や負担にならない程度の風通しのいいコミュニケーションの場があり、他の地域の人も入れるような空間を創出できたらいいと思ったりします
- ◆足白に市議人員を増して地元の意見や要望など、話し合いなどを行い住民との接する機会を作り前進する事。議員が少ない為に議会に意見を言っても多数決にて負ける。まずは議員を増して予算を獲得して、事業をして前進するのみ、金がなくては何も出来ないのでは市会議員を1人でも多く選出して地元の為に働いてもらう事。
- ◆過疎化防止程むずかしい事はない。今日を含む何処もここも。いい案などそう簡単な事じゃない。唯一自分が他所に行って嘉穂の地と言ってもわかってもらえないのが、「馬見山のふもとです」と言う「りんご村がありますね」と、ここ足白の地をわかってくれる。それは色々説明するより簡単なのです。これは素晴らしい足白である事の証でもあります。最近はこのりんご村も10数軒だったのが、今現在3~4件位に少なくなっています。このことをどう思うか、これこそが今の日本全体の過疎化と同じじゃないのか等々、考えてもこれ程むずかしい事はない。唯一馬見山、足白の自然は素晴らしいと思います。
- ◆地域の弱体は、全国的問題であると思う(日本の人口減少に起因すると思うが)。この地域で生まれ育った若者を留めるだけの環境が現状にあるとも思えないし、今後嘉麻市の財政を考えても、環境が整うとも思えない。今在る物事を存続させる為にも、地域外の方を呼び込む必要があると思う。「山奥ニート」を真似てみてはどうでしょうか?まずは人を増やす事から始めてみてはどうでしょうか?
- ◆高齢化が進むなかで、今住んでいる住民の子ども達が地域外に住まないような住み心地のよい地域となって欲しい。そのためには、住むメリットや魅力がないと住み辛い。幸せな暮らしができるのであれば、不便であっても魅力になるかも知れない。校区として足白地域がありましたが、今は以前に比べて地域内の交流が薄くなったような気がする。四行政区ありますが、人口減少もあるので協力できるような事があれば、盛り上がるかも知れない。地域内で先人の知恵の継承ができれば、幸福度が増し魅力につながるかも知れない。
- ◆このままだと過疎化が進んでいくので、若い人が住みたいと思うような地域にしていきたい。
- ◆若い人々が生活しやすい町づくり
- ◆若者が後を継げる環境を考えないといけないと思う
- ◆少子高齢化に伴い、若者の結婚離れなど、まだまだこの傾向は続くと思う。どこで歯止めをかけ、対策するか考えないとこの先不安でならないし子供達も帰る気はない。

- ◆ 高校生や大学生で地域活性化に寄与したいと考えている人はいないですか？また、一旦外に出た人が、この地域に帰りたいと思っている人はいないですか？もし、数人でも居られる様であれば、その人達をサポートする仕組みも必要かと思います。
- ◆ 長寿会、足白地区行事等で必ず足白公民館は、必要である(避難所も含む)。
- ◆ 小学校が地域をつなぐシンボルだったと思いますが、それが失われた今、地域の中心となるべき施設が必要です。公民館にその役目としての期待がかかりますが、駐車場や、広場が併設されることが条件となってきます。今の場所ではそれが不可能と思われます。場所も含めた検討を切に願います。
- ◆ 公民館の老朽化は、とても大きな問題だと思います。ですが一番の問題は次の世代がいけない事です。現状、息子世代がこの地域にいないことの原因は为什么呢？この足白地域にスーパーがない食堂がない交通の利便性の悪さでしょうか？私は、この足白地域はとてもいい所だと思っています。今のままでは、いくらコミュニティの場ができたとしてもそこに人が集まるでしょうか？身内だけが盛り上がっている感じがします。どうしたら息子世代が、家族を連れて帰ってきたい町にするかを真剣に考えるべきです。そのための小さな拠点づくりなら力になりたいです。
- ◆ 公民館での月 1 回のフリーマーケット等で野菜、米果物なんでも(手作りの手芸品等も)持ちよって物々交換など、時々顔合わせる機会をつくるのはどうでしょうか？ずいぶん前に、公民館でいろんな教室があったので、そんなのも復活するといい。会議ばかりでないお茶会を、時々、(参加自由で)参加を集ってバス旅行(日帰りで)、年齢を決めて(例えば 40 才以下)若い人の座談会等(食事会)、絆が深まり少し楽しみが増えるといいかも
- ◆ 嘉穂アルペは、公民館としての利用はできないのか？足白も年寄りばかりになっているが、元気な人がいっぱいいますので、ちょっとした仕事ずかい程度の収入でいいので働けたらいいかな
- ◆ 嘉穂アルペを足白の住民が気軽に利用出来る様にした方が良い。地域コミュニティの拠点施設は必ず必要です。又それを足白住民が利活用する仕組みも
- ◆ 足白の拠点である足白小学校(かほアルペ)を老舗大手の観光会社に委託してすべて運営をまかせるべき、県道千手馬見線も、もうすぐなのに、億の金をかけてもったいない、足白の将来は今、足白小しかない。
- ◆ 耕作放棄の荒地が多いのが気になります。魅力ある農業、この地に合った作物の開発、ハーブや草植物織物の豊かな資源の源田開発
- ◆ 後継者ができるような政策をお願いします(農業)
- ◆ SNS 等利用して、自然のゆたかさをアピール、移住してくれる人をさがしてみてもいいかと思います。
- ◆ コロナウィルスのことを考えると色々な活動が妨げられると思いますが、昔から行われている祭りや年中行事は、途切れることなく続けた方が良くと思います。嘉穂アルペ添いの桜並木は、屏の地域の関わりかもしれませんが、毎年きれいに咲いて和ませてくれます。遊歩道もちゃんとしたものがある

ので整備すれば桜まつりや、桜ウォークなど可能だと思います。もったいないと思います。屏下から屏上の方まで桜並木の下を歩けるとしたら遠方の方も訪れてくれ広がっていくような気がします。何度とも言いますがもったいないです。

- ◆美化作業。共同の草刈り作業など地域の景観を大切にすることが大切。そうすることにより人口の減少はやむを得ないと思うが、地域に残る若者、他地域からの転入も望めるのではないかと思う
- ◆道路側に桜とか紅葉を植えると環境作りに良いと思います。若い夫婦が住みやすい様に公園とか安心して小さい子供が遊べる様な処が出来たら良いです。
- ◆年一回秋のイベントを行う。それをSNS等で広げる。地域の風景や景色をInstagramにUPする・しようと思います
- ◆建物の中に生産性出来るような仕組みを組み合わせる。この地域の人の特性を生かして、人が来るようなマルシェのような物を作る。
- ◆人を呼びよせることが一番だと思う。大型スーパーとかすばらしい山なみがあるので、それをいかしたレジャー施設とか。
- ◆リーダーシップを取ってくれる人が必要!協力は出来る範囲でさせていただきます
- ◆浄円寺は足白地区で唯一のお寺でもありますので、イベントなど、何かお寺を利用できるようなことがあればもちろん協力します。足白は自然環境や風景、キャンプ場、果樹園田畑、カホアルペと、魅力となりうるものはいくつもあるので、地域の活性化にどうにか繋がってくれたらと思います。今、足白地区に住む人たちが協力して何かを行ったり、作ったりするのもいいかと思います。まずは住んでいる人や、足白に関係する人たち自身が元気で楽しくなるような、そしてみんなで参画し協力していくような何かが。足白地区だけでなく旧嘉穂町の他地区と連携して、それぞれの地区の特色を生かし、ゆくゆくは、旧嘉穂町全体で盛り上がったらうれしいです。
- ◆お年よりが楽しく長いきで、子供達も明るくすこやかに育っていくような地域であってほしい
- ◆特筆無し。こういうアンケートは、数十年前にするべきだ。
- ◆地域づくりでの会議はこれからの時代に繋がる。そして、地域の人達に無理・負担がない、地域づくりの協議をお願いしたいと思います。今までのいろんな地元での協議を見ると、最初は、いきおいで進んでいるみたいですが、途中から内容が少しずつ変わり、最後まで、進む事がなく、いつのまにか委員会もなくなるという事が多いような気がします?大変と思いますが、委員の皆様、無理しないように頑張ってください。
- ◆安定した取り組み易い起業をよく考え下さい。通勤、送迎の面を考慮下さって、自然の職場を誇り強く起業していただきたいと思います。

⑤ワークショップ資料

～嘉麻市足白地区の将来像（素案）～

2022.1.16



うまみ

- 食へのうま味。うまい度合。おいしさ。
- 手仕事、工芸などの技術が優れていること。
- 工芸や仕事する能力、技術、技能が優れていること。
- 仕事・商売などの利益やもようけが多いというおもしろみ。

足白地区のシンボル



地区の自慢

- 人情味あふれる足白
- 豊かな自然と田園風景

【自然の恵み】

りんご・梨・果物・米・野菜等の農産物
おいしい空気、美しい星空
美しい馬見山連山と田園風景等

地区が抱える主要課題

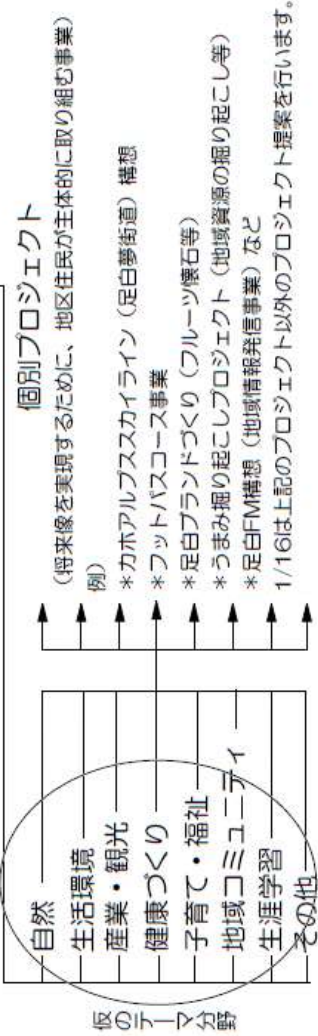
- 若年層を中心とした人口減少
- 交通手段の確保

《地区の将来像》

住んでよし 訪れてよし
うまみ感あふれる

心あたたか デジタル健康田園都市
カホアルプス “足白”

【心あたたかデジタル健康田園都市 “足白”】



嘉麻市の動き

○嘉麻市の将来像

いきいたい 住みたい つながりたい
通賀川源流のまち 嘉麻
～みんなで作る
“誇れるふるさと”
“未来のふるさと”～

主要市町村の動き

○健康

これからの高齢化・人口減少社会において各自治体が目指すべき姿を「医学的に健康な状態のみならず、地域において社会参加している」状態とし、それを「健康」（健やかで幸せな生活）と定義した（スマートウェルネスシティ首長研究会）。

国内の動き

○デジタル田園都市国家構想の実現

○ソーシャリティ5.0

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間を中心とした未来社会のことで、文部科学省が第期科学技術基本計画の中で、「狩猟社会（ソーシャリティ1.0）」「農耕社会（同2.0）」「工業社会（同3.0）」「情報社会（同4.0）」に続く、我が国がめざす新たな社会として提唱。

世界の動き

○SDGs

2015年9月の国連サミットで、加盟国の全会一致で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）のことで、17のゴール・169のターゲットから構成され、2030年を目標としている。

⑥ワークショップ参加者





足白はひとつ！
創ろう足白の未来！